

市の概要

市の概要

地勢・略史

1 位置及び地勢

(1) 位置

| | |
|----|-----------------------|
| 北緯 | 35度43分 |
| 東経 | 139度20分 |
| 標高 | 最高 143メートル(武蔵野台1丁目付近) |
| | 最低 104メートル(福生第五小学校付近) |

(2) 地勢

福生市は、都心から西へ約40キロメートル、東京都の山添いに近く、多摩川の東北側に南北に横たわる市です。

地勢は、多摩川流域に向かって3段階をなして傾斜しており、最も高い段丘で海拔143メートル、最低は海拔104メートルで多摩川沿岸となっております。

2 略史

(1) 古代から江戸時代

福生市の歴史は相当古く、数千年の昔、つまり縄文文化の時代に人が住んでいました。古代には対岸の秋川市にある大塚とか瀬戸岡古墳と呼ばれる豪族の墓でもわかるように、これらの豪族が秋留台地を中心に付近一帯を支配していて、福生もその支配下におかれていました。

中世に入ると集落が発達し、福生郷という地名もつけられ、多くの武士が土着し小宮、滝山の城主の支配下にもありました。

近世に至っては、5代にわたって関東に威をふるっていた北条氏も、豊臣秀吉に屈し、徳川家康の入国と同時に天領、私領の入会地となり福生村、熊川村が独立村として代官、旗本の支配地で幕末にいたるまでおさめられました。

(2) 明治・大正時代

明治に入ると廃藩置県によってこれ等の制度が改められ、葦山県六番組に属し、明治5年には神奈川県12区五番組となり、同12年には西多摩郡役所の管轄となりました。さらに

明治17年には福生、熊川(現福生市)、川崎、五ノ神、羽村(現羽村町)の5村で川崎村連合戸長役場がおかれしました。

その後明治22年の町村制の施行とともに福生、熊川の両村をもって組合役場を設けて事務の共同処理にあたり、その後50年にわたってこの状態が続きました。この間に明治26年には神奈川県と東京府の境界変更があり東京府の所管となりました。

(3) 現 代

昭和15年、長い間続いた両村の組合役場も合併の機運がもりあがり、同年11月10日両村(福生村、熊川村)の合併により人口7,921人をもって町制が施行されました。

戦後の福生町は基地を中心として、基地労務者、サービス業等が激増し、さらに米軍ハウスが約2,000戸も建てられ、農業規模は縮小しましたが、商店街は急速に整備されました。

昭和37年基地の町から脱皮が真剣に考えられ、首都圏整備法による市街地開発区域の指定を受け、都市計画をすすめ、また、昭和45年7月1日に人口38,749人をもって市制が施行され、増大する行政需要に対処し学校をはじめ道路、下水、水道など都市施設の充実も着々と進み、健康で文化的な近代都市への歩みを続けています。

3 面 積

| | |
|-----|----------------|
| 東 西 | 3.6 キロメートル |
| 南 北 | 4.5 キロメートル |
| 面 積 | 10.41 平方キロメートル |

4 福生市役所機構図



